

交流会(NO. 4) 報告

作成 2006.2.1(高宮)

日 時 2006年1月29日(日) 10:00~13:30

会 場 はなの家(坂倉氏提供)

参 加 飯田、貴田、坂倉、鈴木、高宮、早川、、堀内、本田、前田、間宮 計10名

テーマ:「認知症生活ケアについて」

話し手:坂倉英樹氏(平成7年 経済卒)

<ケーススタディービデオ視聴> テーマ 「痴呆者の立場から」

- ・行動を否定しない
- ・命の危険のない限り行動を容認する。徘徊をなくすことは簡単。
- ・行動パターンの理解

過去の生活歴 住環境、家族、兄弟等を理解する

トイレの使用でも「64の判断」のポイントがあり、以前の生活環境が反映される

- ・グループホームの運営

4件/日の割合でグループホームが設立されている

70%が人件費

入居者3名に対して1名のヘルパーをつけている

勤務はシフト制

昼 食 関宿 会津屋 各テーブルにて懇談

関宿散策 昼食後、個人での散策となりました

次回予定 4月8日(土) 11:00~14:00 四日市 担当 前田

詳細決定次第WEBにのせます。又メール、FAXにて3月初旬に連絡します。

<今回は参加者から感想をいただきました>

A 1 :

身近(友人、親戚)に、介護を受けている実例があるので、人ごととも思えなくいろいろ勉強になりました。ビデオの例で、介護をする側と、介護を受ける側では、認識の違いが良くわかりました。

A 2 :

「認知症になりやすいタイプ」に合致する私。10年先にグループホームにお世話になるためには、今の時点で、今後のライフプランを早急に見直す必要があると痛感しました。

A 3 :

知らなかったことを教えていただきありがとうございます。認知症の方の思い・行動と一般の方が判断する視点とのズレがビデオで理解する事が出来ました。データービス、グループホーム、特養施設、老人ホームの違いを少し知ることができました。高齢化が進み長寿者が将来多数になり、介護の重要性を知る事ができました。坂倉さんが地域社会に貢献されて立派だ。

A 4 :

自分自身の問題、身内の問題として考えるきっかけをいただきました。又、グループホーム運営

が受入、近隣へのPRなど地域社会との係わりが重要な側面をもっていることがわかった。

A 5 :

ボケるとか、痴呆とかいう言葉に対するイメージが良くないためか、私の場合認知症に対して誤った理解をしていたことが多々あったようです。両親がすでに他界しているので、この苦勞を知らないことに感謝、感謝です。10年後、20年後に自分はどうなっているのか見当もつきませんが、自分の身近な問題として考える時間をもつことができ、有意義でした。

A 6 :

家族では支えきれない方をあらゆる面から施設でケアしている。これはビジネスというより一種のボランティアのようなもの。本来なら国がやるべきことの多くを民間でやっているような気がする。それを坂倉さんが若さ、情熱、信念をもって取り組んでいる姿は素晴らしいと思う。